

松山大学公開講座

[講座紹介] 令和7年度の松山大学公開講座のテーマは「現代社会をさまざまな視点で見る」です。松山大学の教授陣によるわかりやすい解説のもとに、現代社会をさまざまな視点から見る力を養っていきましょう。

時間

土曜日 13:30~15:30

場所

生涯学習センター

定員

40名

受講料

3,000円

回	日 程	テーマ (内 容) / 講 師
1	6月7日	<p>「多様化・多文化社会への対応について考える ～インバウンド観光を中心に～</p> <p>アフターコロナからインバウンドも復活し、多くの外国人を日本で見かけるようになりましたが、言語はもちろん文化や価値観の違いからその対応に苦慮されている方が多いのではないのでしょうか。それらへの対応について、様々な観点から一緒に考えてみましょう。</p> <p>講師 森田 正大 (経営学部准教授)</p>
2	6月21日	<p>「法律の解釈と改正、そして議論—ストーカー事例を用いて—</p> <p>今回は、ある刑事事件(「つきまとい等」のストーカー事例)を題材にして、(1)法律の「解釈」がどんなものかクイズ感覚で経験してもらい、(2)その後、法律の欠陥(?)を補うためにどのような法改正が必要かを一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>講師 山川 秀道 (法学部准教授)</p>
3	7月5日	<p>「生薬という医薬品」</p> <p>医薬品の三要素は、品質、有効性、安全性です。そのうち、品質については、同一規格を設定して品質確保につなげています。一方、天然由来の生薬は野菜等と同じで、同一なもの皆無です。本講座では、そういった生薬の医薬品としての品質確保について紹介します。</p> <p>講師 天倉 吉章 (薬学部教授)</p>
4	8月2日	<p>「日本の家庭防災対策の現状と課題」</p> <p>日本の家庭防災対策の現状について最新の調査結果をもとに紹介します。その上で、自助・共助・公助の観点から地域防災力を向上していくためにはどうすればいいのか一緒に考えてみたいと思います。</p> <p>講師 尾沼 広基 (経済学部准教授)</p>
5	9月6日	<p>「ご近所付き合いと裁判」</p> <p>近くて遠いような存在である「法律」について、ご近所づきあいから発生したトラブルを例に、「果たして法律は紛争の解決の役に立つのか」を考えてみたいと思います。</p> <p>講師 石橋 英典 (法学部准教授)</p>

回	日 程	テーマ（内 容）／講 師
6	9 月 20 日	<p>「寄せ場とホームレス問題」</p> <p>1990 年代半ばごろから 2000 年代にかけて、東京や大阪を中心に全国各都市でホームレスが増加、「ホームレス問題」が社会問題化しました。講義では、ホームレスが増えた背景にはいったい何があったのかについて考えてみたいと思います。</p> <p>講師 大倉 祐二（人文学部教授）</p>
7	10 月 25 日	<p>「ドラッグデリバリーシステムの現状と展開」</p> <p>ドラッグデリバリーシステム（DDS）は、薬物治療の最適化を支える基盤技術として現在広く実用化されています。遺伝子治療や核酸医薬品などへの応用と合わせて、実用化されている DDS 製剤について紹介します。</p> <p>講師 坂本 宜俊（薬学部教授）</p>
8	11 月 15 日	<p>「アダム・スミスの経済思想：「国富論」と「道徳感情論」をめぐって」</p> <p>アダム・スミスの著書「国富論」と「道徳感情論」の関係性に焦点を当て、彼の思想を読み解きます。両著作を通じてスミスが抱いた社会秩序と経済発展の関係性を探り、現在の経済社会への示唆を議論したいと思います。</p> <p>講師 松本 哲人（経済学部教授）</p>
9	12 月 6 日	<p>「愛媛の地域産業と環境時代への対応」</p> <p>素材産業を中心にエネルギー多消費型が特徴の愛媛の地域産業は、エネルギー源の多様化や地産地消型への移行を加速しています。造船・海運や水処理技術などの活用を含め、環境時代への新たな挑戦について紹介します。</p> <p>講師 片山 哲哉（短期大学教授）</p>
10	1 月 10 日	<p>「小売と I T」</p> <p>I T 利用が進んでいる中国小売業の最新事例（銀泰百貨店を中心に）を通じて、デジタル時代の小売マーケティングや小売マネジメント、および小売業の I T 投資に対する考え方について紹介します。</p> <p>講師 成田 景堯（経営学部准教授）</p>